

阪谷綾子編

追悼・阪谷芳直

倅儻不羈の人

横 田 啓 子

阪谷芳直様のご追悼文を私ごときが書かせていただくことは身に余ることでございますが、阪谷様の国際的なご貢献にあらためて感謝をお捧げ致したく、書かせていただくことに致しました。

阪谷様のご訃報を米国の地において知りましたのは、九月十一日の世界貿易センター・テロ事件の数日後でした。このテロ事件にアメリカの人びとは深い衝撃を受け、言葉を失い、この事件の背景や理由を探し求めました。この事件直後、様々なことが私の胸にも去来致しましたが、そのうちの一つは「阪谷様は日本でこの事件をどう受け止めていらっしゃるだろうか。アメリカ社会をご留学やお仕事を通してご存知の上、国際的なつながりを持ち、歴史的、世界的視野に立って深く考えられる阪谷様は東京という地にあつて、どのように考えられているだろうか、是非とも伺つてみたい」ということでした。

その後、遅配されてきた日本の新聞の訃報欄で、阪谷様のご逝去の事を知りました時には、我が目を疑いました。阪谷様には尚友倶楽部からの様々なご寄贈事務を通してお見知りおきを得ましたが、

このようにわずかの交流をもつしかない私ですら呆然としてしまったのですから、ご家族の皆様方の喪失感、お悲しみはいかばかりと想像を超えるものがありました。

阪谷様に初めてお目にかかりましたのは、霞会館のレストランでございました。当時、私は米国マサチューセッツ州にあるアマースト大学で日本語の講師をしており、霞会館より日本伝統研究のための図書のご寄贈をいただいております。図書委員会の鍋島様、大木先生と昼食をご一緒させていただいておりました時に、阪谷様が側を通りかかられ、大木先生が親切にも私を阪谷様に紹介して下さいました。氏は、すつと名刺を差し出され、「何かできることがあればご連絡下さい」と優しくお言葉をかけて下さり、去って行かれました。

この間わずか数秒間でしたが、さりげないお言葉のなかにとっても誠実な響きを感じ、品格のあるお姿が強く心に残りました。

当時、アマースト大学では日本語クラスは教授一名と非常勤が一名だけで、欧米言語と文化を中心とするカリキュラムと大学の方針の下で、日本語を学びたいという学生は増加するものの日本語クラスそのものはまだ弱く、なんとか常勤講師のポジションを作って日本語クラスを強化し、日本研究を堅固なものにしたいと願っていました。ある日、教授と日本語クラスについて話している時、不思議なことに阪谷様のことが思い出されて「何かできることがあれば……」のお言葉に甘えて、とりあえずご相談申し上げてみてはどうか、ということになりました。

阪谷様は私どもの厚かましい相談事にも快くすぐに具体案をもって応じてくださり、氏のご尽力の

お蔭をもちまして、アマースト大学が最終的に常勤講師を設置することを条件に、そのきっかけとなる補助を尚友倶楽部からご寄贈いただけることになりました。

アマースト大学は同志社大学創設者の新島襄や内村鑑三が留学し、またその後も日本の近代思想の発展に寄与した多くの知識人が学び、歴代の米国への日本大使はそのほとんどが同大学で外交官研修を受けるなど、近代以降の日本歴史の底流に大きな影響を与えてきた大学です。

このような日本とのつながりの深いアマースト大学で、日本語クラスと日本研究カリキュラムの充実という同大学の一つの歴史を作ることができましたのも、阪谷様のご見識あるご尽力の賜物であったと心から感謝しております。

私はアマースト大学におりました頃、霞会館の皆様方からの図書ご寄贈のお手伝いさせていただくことを通しまして図書館の役割に興味を持ち、その後大学院に戻り、司書の資格を取得して、現在はシアトルにございますワシントン大学東アジア図書館にて日本学研究専門司書の仕事をしております。着任のご挨拶状を阪谷様に差し上げましたところすぐにお返事を下さり、不勉強のため存じ上げなかった尚友倶楽部の出版事業についてご教示下さったばかりでなく、出版図書すべてのご寄贈を申し出て下さいました。

身に余る光栄でした。大学司書の仕事を始めたばかりの私に対する最高の贈り物でございました。ワシントン大学では尚友倶楽部から賜りました図書を「尚友倶楽部コレクション」として永久保存し活用させていただいております。

このご寄贈がきっかけとなりまして、「大日本帝国議会史」を始めとする、日本憲政資料の購入が容易となり、日本近代史研究のコレクションを充実させることができました。現在これらの資料を利用し、韓国からの留学生が日本帝国議会史の博士論文を執筆中です。

アメリカ流に申し上げれば、阪谷様はプラクティカルなお方で、相手が必要としているところをすぐに見抜かれ、ご自分ができることを、無駄な儀礼を抜きにさりげなく惜しみなく与えて下さいました。与えて下さるといつても、条件を下さり、それがまた結果的には相手のためによりよいことになった。他のことで返ってくるような、そういった知性と慈愛にあふれる素晴らしい方法でご協力して下さいました。

このような阪谷様のご貢献はアメリカの一家所だけに及ぶものではなく、世界各国にその立派なお仕事を通して影響を与えられているものと存じます。氏のご功績は、氏のお仕事とは直接知られないかもしれませんが、世界中の幾世代にも渡って享受され、多くの人びとの人生をより明るく幸せにしていることと信じてやみません。

最後になりましたが、このような国際的な白眉の知識人であられた阪谷様をほんのわずかでも存じ上げる機会を与えられましたことは、私にとりまして主による賜物以外何ものでもないと感じの念にたえません。

あらためて阪谷様のご冥福を心よりお祈り致しますとともに、ご家族、ご親族の皆様方が阪谷様の数々の温かい思い出とともに歩んで行かれますよう心より深くお祈り申し上げます。